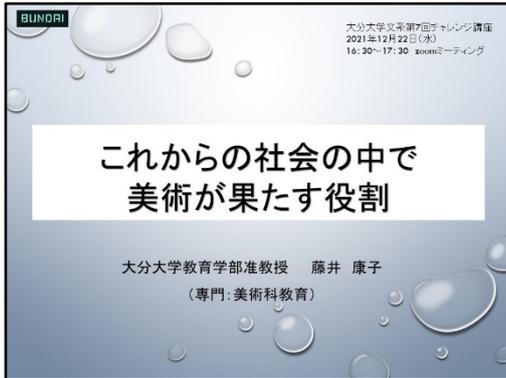


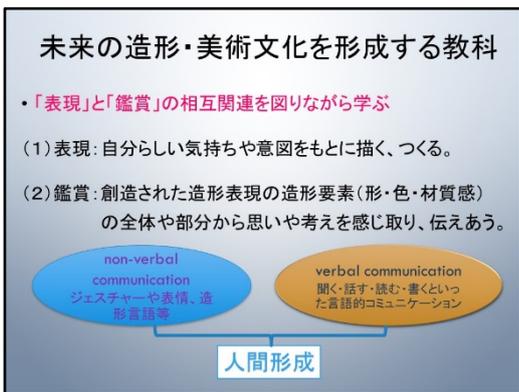
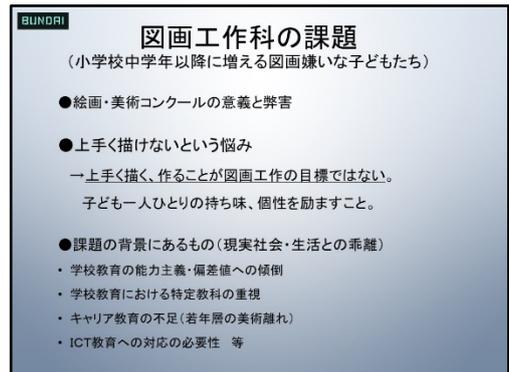
## 2021年度文系チャレンジ講座（第7回）を実施しました

12月22日（水）、教育学部の藤井康子先生を講師に迎えて、「これからの社会の中で美術が果たす役割」というテーマで文系チャレンジ講座の第7回を実施しました。中津南、中津北、国東、別府翔青、大分雄城台、大分鶴崎、大分西、芸術緑丘、臼杵、竹田、日田、安心院、三重総合、大分東明高校の14校188名が受講しました。



美術科教育、海外の美術教育（スペイン）等が専門の藤井先生は、どのような図画工作科・美術科の授業をこれまで受けてきたか、そしてその経験はあなた自身にどのような影響を与えていると思うかという視点から、美術の意義や役割について生徒に投げかけて考えてもらいました。図画工作科・美術科では、子ども一人一人の個性を伸ばし励ましていくことが大切である。美術を学ぶ意義の一つは、自分の伝えたいことを相手につたわるように表現す

る方法を身につけることであるという話をしていただきました。そして、社会や身のまわりに沢山の造形表現が見られること、文化財・歴史資料としての造形表現の中には造形美が備わっていることについても触れ、図画工作科・美術科は未来の造形や文化を形成する教科であり、子どもの情操を育て、自国や他国の文化及び芸術への理解を促し他者とのコミュニケーション能力を養う教科であることを分かりやすく説明さ



れました。藤井先生のお話から、美術教育の大切さとそのことを社会に認知させたいという強い思いが伝わりました。講義後のアンケート調査では、「総合的に判断して授業がよかった」（98%「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計。以下同じ）、「わかりやすかった」（96%）、「受講生は授業に意欲的に取り組んでいった」（95%）という結果でした。

遠隔配信については、「音声はよく聞こえた」（99%）、「映像はよく見えた」（92%）という結果でした。生徒からは「地域によって色の見え方が違うことを知り驚いた。これから自分の感性を大切にしてお互いのコミュニケーションツールとして関わりたい」等の感想が出され、貴重な体験になったようです。

